

FLORA KANAGAWA

● April 8, 1989 No. 26

神奈川県植物誌調査会ニュース 第26号

〒231 横浜市中区南仲通5-60 神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会・振替 横浜 3-10195



タンザ' ワウマノスス' クサ

神奈川県植物誌資料の 1 kmメッシュコードによる記録

大場達之

神奈川県植物誌88においては、メッシュ策定時に一般的なメッシュ区分法が確立しておらず、緯度経度法、KLIPS（金井）法などを検討しました。しかしこのような直線で区切ったメッシュにはいろいろな欠点があります。ひとつには、四角いメッシュは、わたしたちの日常的な生活における空間感覚にマッチせず、無味乾燥で機械的な匂いが強いということがあります。つまりメッシュ法はデータを整理するには都合がよいが、野外での調査の単位としては不都合な点が多いということがあります。結局、私たちは市町村を基礎とす

る108メッシュを採用することにしました。しかし、その後国土庁、国土地理院などを中心とする国土数値情報のメッシュ区分が一般化し、人口統計、地形、環境など極めて多数の情報が、このメッシュに基づいて蓄積されています。神奈川県植物誌の今後の発展には、このメッシュを考慮することが必要かと考えられます。そこで考え方を變えて、調査の区画には、人間的な、メッシュに何等かの意味のある区分を用い、分布データの表示にはより詳細な表示が可能な細かいメッシュ区分を用いてはいかがでしょうか。調査と、その結



果の表示を分けて考えるわけです。その作業の手順は次のようになります。

1. 調査の区画としては、不合理なところは修正するが、従来¹の108メッシュを基礎とする。川崎市や横浜市で分区されたところなども考慮する必要があります。
2. 個々の標本データの分布地点表示には国土数値情報の3次メッシュを採用する。
3. これまでに蓄積された標本については、標本単位で、パソコンに再登録をおこなう。
4. 登録項目は次のとおり
 - (1) 標本番号 標本收藏場所ごとに連番号とする。標本に個体番号を与える。
例 神奈川県博 K-1 ~
平塚市博 H-1 ~
横須賀市博 Y-1 ~
 - (2) 採集地コード (従来¹の108メッシュのコード番号)
 - (3) 採集地の細地名
 - (4) 国土数値情報3次メッシュのコード番号
 - (5) 採集者
 - (6) 採集年月日
 - (7) 和名

標本を1枚ごとに登録することは植物誌編集の途中で何回も考えましたが、パソコンの容量や、登録の作業量から無理が多く、実施できなかったものです。現在ではハードディスクが使えますの

でパソコンレベルでも約12万点の標本が登録可能になっています。

平塚市博のようにすでに標本データがパソコンのワープロデータとして入力済のものは、データを変換のうえ(3)の細地名から自動的にメッシュコードが付加されるようにしたいと考えます。これは1/25000地形図の全地名をメッシュコードとともに登録した電子辞書を作成すればほぼ達成されます。かなり大変なようですが、千葉県では昨年の10月からとりかかって、約9400の地名の登録を完了しています。(神奈川県¹の1/25000地形図は44枚、千葉県のそれは77枚です)。

標本データの登録はパソコンで、dBASEIIIあたりを使っておこなってはどうかと考えます。標本数が膨大なので、特定の科を定めて順次登録してはいかがでしょうか。

国土数値情報の3次メッシュは8桁ですが、これをそのままつからは繁雑にすぎますから、神奈川県については、独自に次の様に4桁で表記するのがよいと考えます。

1. 神奈川県に関わる国土地理院の1/25000地形図44枚を、右上から左下に(北西から南東に)

順次01から44まで2桁の番号をつけます。

2. それぞれの1/25000図幅を縦横に10等分します。(最近出版の1/25000図には10等分するための短線が青色で印刷されています。)

3. それぞれの10等分の区画を、上から下に0~9、右から左に0~9とし、メッシュの番号は、縦横の順にその数字をつなげます。つまり図

1/25000地形図の図幅番号

		1 五日市					
	2 上野原	3 与瀬	4 八王子	5 武蔵府中	6 溝の口	7 東京 西南部	
	8 大室山	9 青野原	10 上溝	11 原町田	12 荏田	13 川崎	14 東京 国際空港
15 御正体山	16 中川	17 大山	18 厚木	19 座間	20 横浜西部	21 横浜東部	22 届島
23 駿河小山	24 山北	25 秦野	26 伊勢原	27 藤沢	28 戸塚	29 本牧	
30 御殿場	31 関本	32 小田原 北部	33 平塚	34 江ノ島	5 鎌倉	6 横須賀	
37 裾野	38 箱根	39 小田原 南部			40 秋谷	41 浦賀	
	42 熱海	43 真鶴岬				44 三浦三崎	

図幅内の番号

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
1	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
2	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
3	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
4	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
5	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
6	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
7	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
8	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

の一番左上のメッシュは0.0、右下のメッシュは9.9になります。

4. 図幅番号2桁と図幅内のメッシュ番号2桁を連記して4桁でメッシュを記します。

5. たとえば神奈川県立博物館のある図幅は横浜東部で図幅番号21. 県立博物館は上から7番目(6)、左から2番目(1)のメッシュですから、その標記は2161となります。

4桁コードと8桁コードとの変換はパソコンで簡単に可能です。

国土数値情報の3次メッシュは、国土地理院の1/25000地形図を東西、南北にそれぞれ10等分したもので、1メッシュは約1km四方です。

このメッシュによる分布表現がどのようになるものか、城川先生が中心になってウマノスズクサ科の全種のデータを整理していただきましたのでパソコンでプログラムをつくって表示してみました。将来はこの地図に市町村界、標高なども表示するようにしたいと考えています。

メッシュの数は約2500。これまでのメッシュの108に比べて格段に表示が精細です。これまでに集めた標本を再登録するだけで、20倍

細かな表示ができるというわけです。その登録は大変ですが徐々にでも進める価値のある仕事だと思います。

神奈川県に分布するウマノスズクサ科 (神奈川県植物誌調査会標本による)

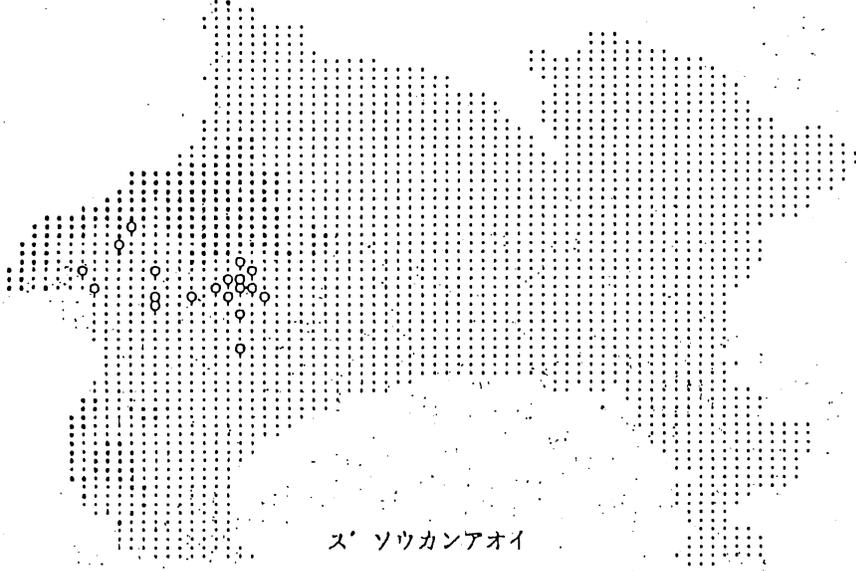


メッシュは国土数値情報3次メッシュ。濃く表現したのは海拔1000m以上を含むメッシュ。PC98のハイレゾモードで表示したものを、ハードコピ

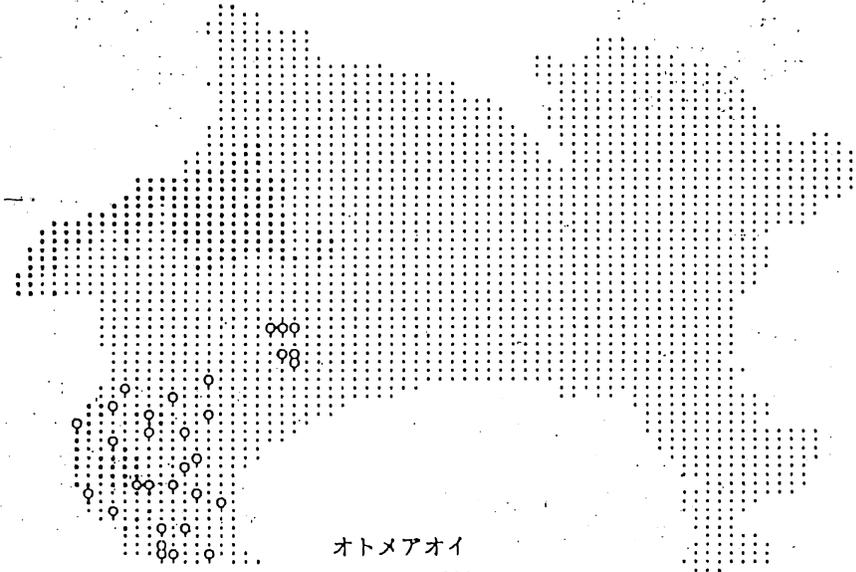
ーしたもの。ページプリンタ、XYプロッタなどに出力すればもっと複雑で美しい表現が可能です。



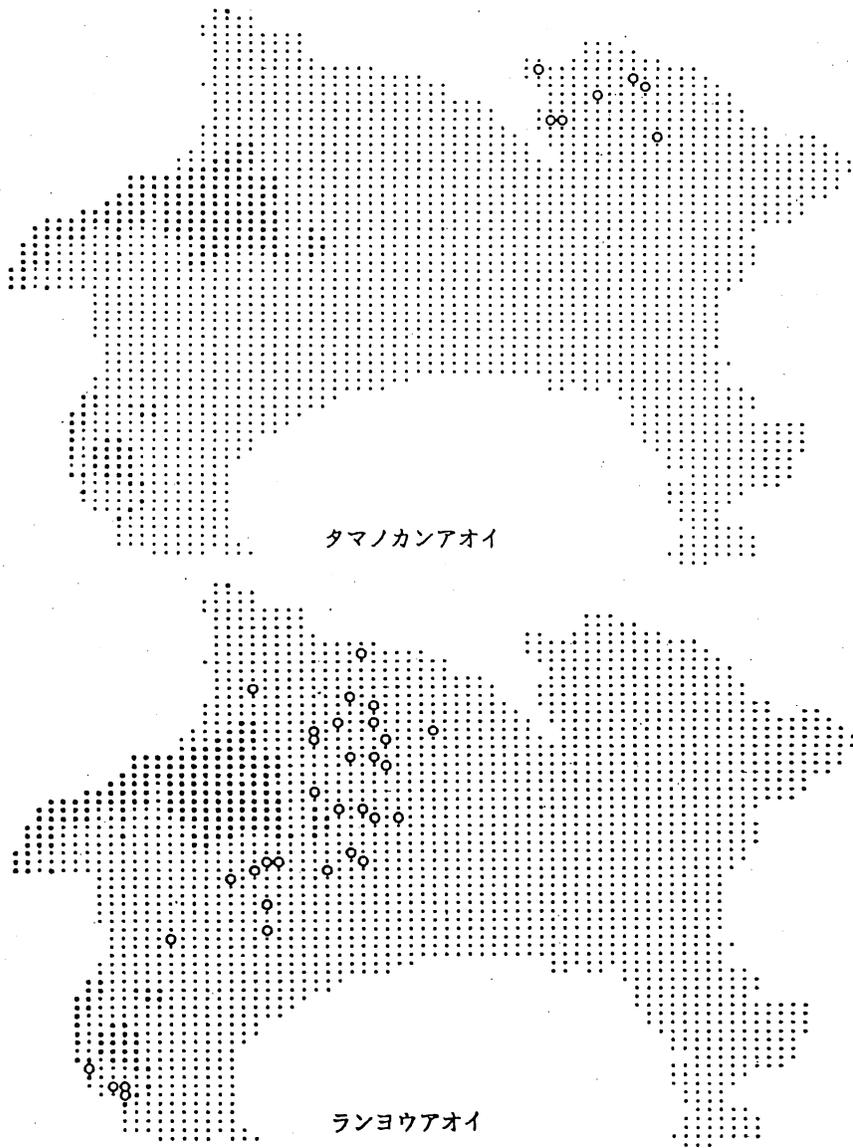
カントウカンアオイ



ス ソウカンアオイ



オトメアオイ



正誤表への追加

村上 司郎

先日お手元へ届いた「神奈川県植物誌1988」の正誤表に、当方のミスで、植物研究史(2)の誤りを落としてしまいました。正誤表の最後に(p.4)次の項を追加していただければ幸いです。たいへん申し訳ございませんでした。

1375 上22

誤 出口は鶴見高校時代、多くの標本を残したが、それを同校の森茂也が整理し、「三ツ池

正 出口は鶴見高校時代、多くの標本を残した。また同校周辺の植物を調べて、「三ツ池
なお再版の方は森さんの方で訂正してあります。

ミズキの開花一斉調査

秋山守, 浜口哲一, 平松俊子, 城川四郎, 黒沢一之, 三輪徳子, 森百合子, 内藤美知子, 鈴木慶司, 斎木操, 斎藤滋子, 高橋秀男, 大森庄次, 大森雄治, 大場達之, 山口育子, 米山知恵子, 吉川アサ子

神奈川県植物季節を調べる第2弾として1987年5月にミズキの開花調査を行ないました。フェノロジーを調べるには、持続的な調査が必要ですが、1時点に広い範囲を調査するというのもまた意義のあるものです。

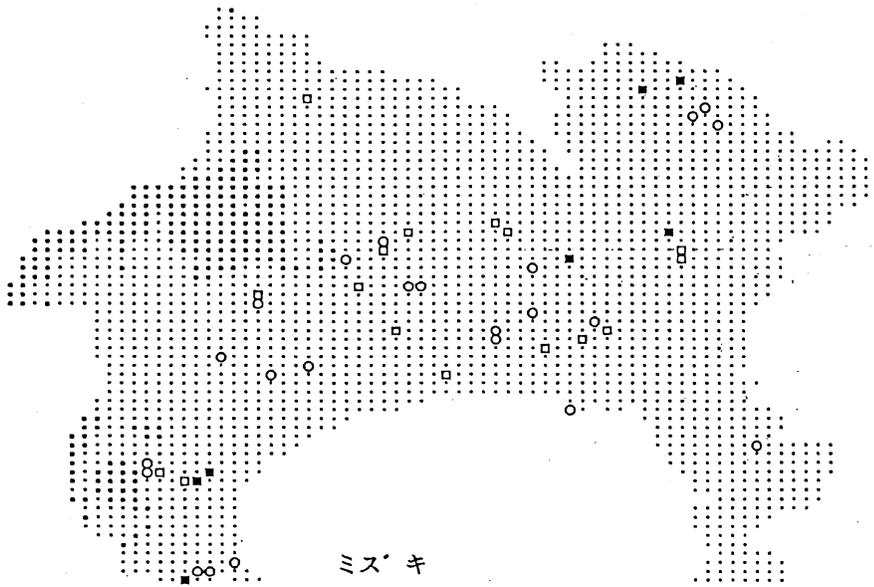
第2回開花調査は、その結果を植物誌刊行記念の特別展に展示しようという下心がありましたので、誰にでもわかるはっきりとした植物で、神奈川県に広く分布し、開花の時期がかなり一斉なものということでミズキを選びました。しかしそれでも開花程度の記録は人によって判断にばらつきがありうると考えられます。そこで今回は開花の状況を写真に撮っていただくということにしました。これもその写真を大きなパネルに張り付けて、神奈川県ミズキ開花季節地図として展示しようと考えたためもあります。結局植物誌編纂の仕事に流されてミズキ開花調査のとりまとめが遅れまことに申し訳なく思っております。おくれげせながらその報告をいたします。

調査日は調査会の標本を参考にするとミズキの開花は神奈川県低地で5月初めと想定されました。調査するのに好適なのは、神奈川県において、未開花、満開、終花の状態が各地に分散して見られるような日です。そこで、低地では花が終り、山地ではまだつぼみで、その中間の地帯で満開と予想されるような5月中旬に設定しました。5月16日が日曜日でしたので、5月16～17日を調査日としました。この日曜日はほとんど1日中雨でしたが、熱心な皆様から多数の報告をいただきました。この両日に都合のつかなかった方からは若干前後した日の調査データをいただいています。

結果

結果は国土数値情報3次メッシュを用いて表現しました。一つのメッシュに複数の報告があるものについては、そのうち最も開花段階の進んでいるものを代表としました。報告のあったメッシュは合計70です。神奈川県メッシュ総数は(数え方にもよりますが)2556ですから調査の欠けている地域が多いのですが、全体の傾向ははっきりとつかめます。1987年の春は例年より暖

図1. 咲き終わり圏：低地ではほとんど終花(□)、一部では若い果実の段階(■)にまで進んでいましたが、一部の丘陵地などでは過花(○)の状態です。



かく、ミズキの花期も1週間程度早かったもようです。北斜面では花なのに、南斜面ではほとんど花が終っているという場合もあったようです。また並んではえていても若干開花状態に差があるものもありましたが、おおむね一つの地域の開花段階は一定といってもよいようです。中にはガマズミやクマノミズキの写真を届けられた方もありました。メモによる記録ではこのようなデータのチェックが困難ですが、今回のスナップ写真法はその点が優れているように思えます。また開花段階の判断も一元的におこなえるという利点があります。今後広く応用が考えらるよい方法であると思われる。

野外での観察や届けられた写真から判断して、この調査当時のミズキの開花状態は次の7段階に区分できそうです。

1. 緑蕾、緑色のかたいつぼみ
2. 白蕾、白くなっているつぼみ
3. 初花、咲きはじめ、花序の一部、または木の一部の花序が咲きだしている
4. 盛花：満開、木一面が純白
5. 過花、咲きすぎ、一部の花はまだ白いが、大部分の花は茶色くなり、落ち始めている
6. 終花、花はほとんど脱落し、白い花は見られなくなっている
7. 若果、丸い緑色の果実になっている

これをパソコンで地図に出力してみました。メッシュが細かいので3枚にわけて示します。開花段階は写真で判定しましたが、5月13日のデータ(綾瀬町)については1段階すすませて記録してあります。

1987年5月16~17日の神奈川県のみずき気候からすると、神奈川県は咲き終わり圏、満開圏、蕾み圏の3地域に区分できそうです。

1987年はミズキの開花がやや早かったこともあって、満開はかなり山手に移っており、丹沢、箱根などでの調査が一番変化があって面白かったようです。

ミズキのような著しい樹木では、開花期に飛行機を飛ばせば綿密な調査が可能と考えられます。(文責 大場達之)

図2. 満開圏：盛花(○)であったのは、丹沢、箱根周辺などですが、これは必ずしも海拔高度だけではなく、津久井の藤野町では海拔200m位でも満開の状態でした。これから見ると津久井では低いところでも盛春は他に較べてかなり遅いということのようです。

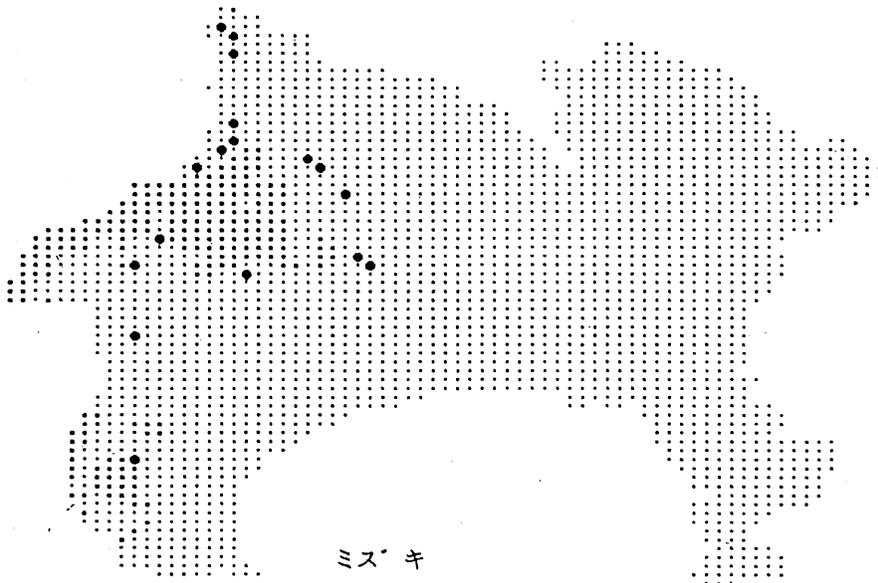


図3. つぼみ圈：丹沢・箱根の海拔500m附近で初花(△), 700m附近では白蕾(▲)で、海拔700mを越えると緑蕾(+)でした。



索引の正誤

「神奈川県植物誌1988」の索引は、本文のワープロ原稿のフロピをもとに、学名と和名を抽出し、それにページをつけ加えたものです。それぞれデータ量が膨大であったので、dBASEIIIにデータを移し、並べ替えを行なったうえ、Basicのプログラムで段落などの加工をして、エディタのMaifesで体裁を整え、ワープロの新松でページプリンタに出力するという段取りでつくりました。その際Basicのプログラムのミスで学名の亜種の所が脱落してしまいました。また和名索引にも誤りがありました。植物誌編集の最後の段階で徹夜で作業しましたので、頭がボケていたものと思われます。再版ではそれらのミスをかなり直しましたが、初版の読者には大変ご迷惑をおかけしました。静岡市の大村敏朗さんからはご自分で正誤をただし、そのコピーをお送りいただきました。初版の読者には別途訂正済みの索引をお渡ししなければならぬ所ですが、経費のこともあり今後検討させていただきたいと考えます。(大場達之)

- 編集後記 -

この号は新しいメッシュコードが中心でしたので、私が編集いたしました。今回はプリンタの出力、編集、オフセット印刷まで全部一式自分でやってみました。なかなか面白く、失業したら印刷屋を開業しようかと考えています。本誌のタイトルは23号あたりまでレタリングセットを使って手書きでしたが、本号ではすべてパソコンで作りました。いよいよデスクトップパブリッシングの時代が到来したように思えます。次の神奈川県植物誌2000はすべて電子的に作成されるものと予想されます。(大場達之)

大和市のマツグミ

山本 明

大和市の北端で相模原市に接するところに富士塚と称する高さ4～5mほどの小さい塚があります。ここは浅間の森とも言われ、以前は公所浅間神社があった所です。神社は昭和50年に現在の下鶴間公所に移され、今は建物は何もなく、鳥居のあった基石だけが残されています。

ここにモミの立派な大木が1本あります。測ってみましたら胸高直径が88cm、高さが約30mありました。すぐそばには、このモミより少し低いイヌシデとスギの大木があり、この3本は遠くからでもよく見えます。

7月下旬の様子を見に出かけたところ、このモミにマツグミがたくさんついているのが分かりました。ちょうど花の時期で、深紅の花が見事でした。マツグミはモミやツガなどに着きますが、植物誌で浜口先生もふれられていますように、なかなか見つけにくいものです。私も近くでは高尾山で見たくらいで、国立科学博物館の標本庫にも東京近辺のものとしては、高尾山と浅川の林業試験場の標本が納められているだけです。植物誌の分布図にも丹沢の「清川-3」と「伊勢原-1」の2点しか打たれていません。今回、県央の平地（標高90m）で見つかったのは興味あることと思いい、報告する次第です。



ハイニガナ

大場達之

植物誌編纂の際に、いくつか疑問の種類があり、その解決を後回しにしたものが残っています。これから順次整理してみたいと考えていますが、ハイニガナもその一つです。これはニガナによく似た種類ですが、より湿ったところに生え、地表すれすれにオオジシバリのような匍枝を出す

点が特徴的です。花は舌状花が5個ですが、ニガナよりひとまわり小形です。そこでニガナ属の検索表の最後のところを次のように変更いたします。ハイニガナは田圃の湿った畦道に生えることが多いようです。花は4月末から5月はじめで、ニガナと同じです。同じところでも乾いた土手にはニガナ、畦にはハイニガナと分かれて住んでいます。

D. 花は黄色、白色。総苞は長さ6.5～9mm。冠毛は汚褐色

E. 匍枝を欠く

F. 舌状花は5個、花序の葉は基部楔形・・・・・・・・・・(7)ニガナ

F. 舌状花は6個、花序の葉は基部やや広がって毛状の鋸歯がある・・・・・・・・(8)サガミニガナ

F. 舌状花は7～8個、花序の葉は広く、葉を抱く・・・・・・・・・・(9)ハナニガナ

E. 地表に匍枝を出す。舌状花は5個・・・・・・・・・・(10)ハイニガナ

(10) ハイニガナ *Ixeris dentata* (Thunb.) Nakai var. *stolonifera* (Kitamura) Nemoto

ニガナによく似ているが短い匍枝が出ること、花がやや小さい点が違う。水田の湿った畦に生える。本州北部から九州に広く分布するが、あまり多くない。神奈川県では寒川町、緑区の早野町、鉄町、新治町などで採集されているが、実際にはもっと広く分布しているものと思われる。